

思想の自由市場論の新展開

梶原健佑(九州大学)

1. 思想の自由市場論の来し方

- ▶O.W.ホームズ、L.ブランドイス
 - ・「望ましい究極の善はアイデアの自由な取引によってよりよく達成されてきた」「真理についての最善のテストは、市場での競争において受容されるだけの力を思想がもっているかどうかである」
 - ・「議論を通じて虚偽や誤謬を暴き出し、教育のプロセスによって悪を回避するだけの時間があるのであれば、採用すべき救済策は沈黙の強制ではなくモア・スピーチ(more speech)である」
- ▶理論のいくつかの前提
 - ①言論の応酬・情報流通は妨げられてはならず、市場に投入される言論(情報)量は多いほど好ましい
 - ②「真理」は実在し、究極の善と評すべき目標であること
 - ③市場参加者は、虚偽と真理を見分けるだけの理性的能力を備えている
- ▶受容と批判

2. 思想の自由市場の「機能不全」?

- ▶インターネットという「市場」への期待
 - ▶ソーシャルメディアの現状とその「弊害」
 - ・ヘイトスピーチの蔓延、名誉毀損・侮辱・プライバシー侵害・炎上等による具体的被害
 - ・認知情報の歪み・偏り・操作、社会の分断、(本来想定されていた)民主過程の阻害
 - ・人間の処理能力をはるかに超えた情報量、真偽判定能力を超えたフェイク・コンテンツ
- 思想の自由市場は期待された「機能」を果たしているか? 果たしうるか?

3. 思想の自由市場論の行く末?

- ▶市場理論の「堅持」か「放棄」か、あるいは「修正ないし捉え直し」か
 - ・マイクロ経済学という市場の条件、「市場の失敗」
- ▶市場を機能させるための国家の役割とは? …【 α 】
 - ($\alpha-1$)具体的な被害に対応した行為者の法的責任追及
 - ($\alpha-2$)競争政策や各種優遇策を通じてのメディア(および言論)の多様性確保
 - ($\alpha-3$)市民の情報認知を歪める行為の規制・情報の直接的なコントロール(罰則や削除命令など)
- ▶市場を機能させるためのDPFの役割とは? …【 β 】
 - (β)「より適切な」コンテンツ・モデレーション

4. 思想の自由市場の新展開と憲法学

- ▶役割 α は「国家の責務」か、「正当化されうる政府利益」か
- ▶表現の自由に基づく編集権・裁量を有したDPFに役割 β を義務付けることの正当化根拠
 - ・「デジタル立憲主義」という解答の仕方
 - ・DPFは純粋な意味での「表現者」ではない、という理路
- ▶三すくみ構造(J.バルキン)における憲法問題
 - ・AC間(古典的): $\alpha-1$ 、 $\alpha-3$
 - ・AB間(今日的): β の強制ほか
 - ・BC間の紛争においてAはどちらの表現の自由を優先させるべきか

